



5年生 福本圭紀

みなさん、「薬剤師のためのフィジカルアセスメント」をご存知でしょうか？

毎年、医学部5年生の精鋭(6名)の皆さんが、病院や地域で開局している薬局の薬剤師の先生方へ、問診の仕方や脈の取り方、血圧測定の仕事、さらに聴診器を使い心音や呼吸音の聴き方を教えています。

「貧血の見方は、こうやって目の下の方を引っ張って、結膜を…」

「脈の測定の仕方は、まず、三本の指で…」

「聴診器は、つけ方は…」

5年生の精鋭の皆さんが、自分の兄や姉、あるいは両親と同世代の薬剤師の先生方へ、学んだことを一生懸命教えています。一方、薬剤師の先生方は、医学生を『先生』と呼び、熱心に耳を傾けて学んでいます。

「とても、勉強になりました!」

「すぐに、使えそうな技術を学びました!」

「また、来たいです!」

など、満面の笑みを浮かべて、医学生と固い握手を交わして帰ってゆきます。

なぜこのような講習会を実施するの? 近年、チーム医療の環境として薬剤師が副作用を早期発見するために、フィジカルアセスメントをすることが推進されています。問診をとったり、バイタルをチェックしたり、心音や肺音を聞くことを薬剤師が行います。これらは、病院薬剤師や在宅薬剤師を中心に



5年生 渡辺華子

広がっています。

長崎大学病院ではこの講習会を、平成22年より開始しています。年に12回(月1回)の通年コースでは、県内の病院薬局から参加があり、すでに160名が修了しています。



医療教育開発センター 教授 濱田久之



5年生 和田澄華

ます。また、単発のショートコース(1日コース)では、通年コースとは別に、県内の薬剤師の先生方を中心に、遠くは佐賀、大分、山口からこの講習会を受講にきています。このショートコースだけで累計177名が修了しています。

開始当初の頃、手伝っ



5年生 西田千紗

て頂いた医学生の方々は、すでに立派なお医者さんになりそれぞれの職場で学んだことを実践しています。

長崎大学病院は、長崎県病院薬剤師協会などと共に協議会組織「薬剤師のフィジカルアセスメント研究会」をつくり、講習会を実施してきました。この分野においては、全国的にも先駆者となり、我々のチームが出版した「薬剤師のためのフィジカルアセスメント(南江堂)」はこの分野のバイブルとなり版を重ねています。講習会が、とても好評である一因は、診断学を学び臨床実



5年生 鄭曉剛

習を開始した5年生の皆さんの協力のおかげです。講習会の基本は、小グループの実習です。4名の薬剤師の先生に、1名の医学生が手取り足取り教えます。5年生の皆さんは、しっかりと予習をし、薬剤師の先生方に教えます。「教えることは、学ぶこと」であり、医学教育の理論というよりも、最も効果ある学習は「人に教えること」なのです。5年生の皆さん「先生」は、教えながら学んでいます!



5年生 品川博光



5年生 知念由真

歴代の医学部5年生(約6名×8年=48名)が支えてくれた、この講習会、ありがとうございます!! お願いします!!

九州・山口医科学生体育大会 長崎大学 総合順位 4位

☆団体☆	男子	女子
バレーボール	3位	1回戦敗退
バスケットボール	準優勝	5位
卓球	優勝	3位
バドミントン	準優勝	予選リーグ敗退
剣道	3位	予選リーグ敗退
弓道	入賞無	3位
柔道	4位	
準硬式野球	予選リーグ敗退	
ラグビー	1回戦敗退	
サッカー	2回戦敗退	
硬式テニス	3位	1回戦敗退
ソフトテニス	優勝	準優勝
水泳	準優勝	準優勝
ウインドサーフィン	入賞無	
陸上	3位	入賞無
フットサル	予選リーグ敗退	予選リーグ敗退

有志コメント

水泳部 前主将 医学科4年 井上駿君
こんにちは。長崎大学医学部水泳部です。九州5連覇を目指した今回の大会でしたが、結果は惜しくも2位でした。しかし、多くの部員が自己ベストを更新し、リレーでも長医の過去最速を記録することができました。



学友会便り

長崎大学医学部学友会広報部

みなさん、こんにちは。今回の学友会便りでは2017年3月から5月にかけて行われた九州・山口医科学生体育大会の結果をお知らせします。部活動が盛んな長崎大学らしく、素晴らしい成績ばかりです。今号では、個人戦もしっかりと載せさせていただきます。

☆個人戦☆	選手	順位・賞
バレーボール	中野幸太	ベストレフト
バスケットボール	塩崎翔平	ベストディフェンス賞・ベスト5
	四元鉄	ベスト5
卓球(シングルス)	山根大毅	3位
	北原賢一	8位
卓球(ダブルス)	牧野・若松	7位
バドミントン(ダブルス)	岡本・村端	優勝
剣道	本田弘幸	優勝
弓道	小畑実加	3位・優秀射技賞
柔道(軽量級)	佐藤和也	3位
柔道	長井冴子	3位
ソフトテニス	小寺・百岳龍	優勝
	伊達・百岳駿	準優勝
	神田・宮崎	3位
	土井・中村	3位
ボート(対抗)	山家・吉田・榎本・畑原・福井	3位
ボート(一般)	徳永・大久保・上村・清水・桑木	4位
ボート(ダブル)	杉山・春野	3位
陸上(400mH)	影浦尚輝	優勝
	森田大	5位
陸上(3000mSC)	宿輪尚孝	3位
陸上(走高跳)	日高拓也	優勝
陸上(100m)	松島蓮	7位
陸上(1500m)	木住野美緒	6位
陸上(3000m)	山口裕佳	3位

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート

6年 尾方 信仁

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート

6年 坂山 朋子



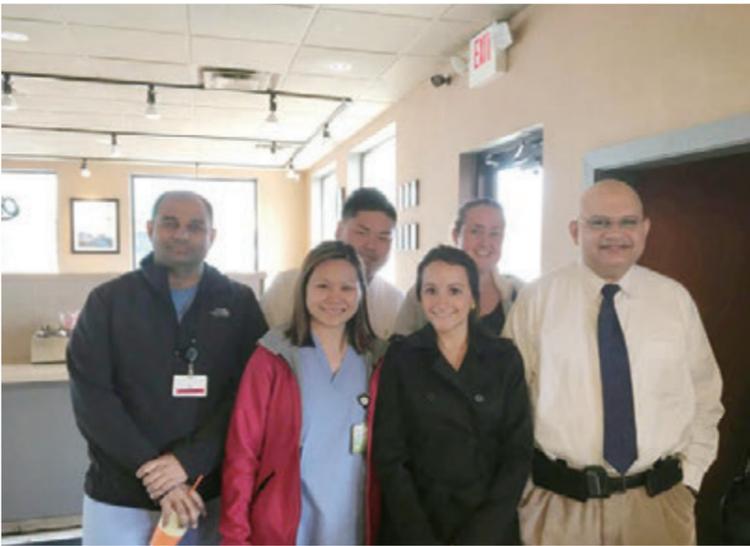
暁のスパロー病院

私は、この度ミシガン州立大学の附属病院であるスパロー病院で神経内科と家庭医療科を2週間ずつローテーションさせて頂きました。まず初めに、スパローの神経内科はジェネラルとストロークに分かれていて、ストロークでは毎日脳梗塞などの救急疾患を発生した患者が多く運ばれてきます。そこで患者の状態を手際よく正確に診断し適切な治療へと導くのがストロークチームの役割でした。手技や問診1つ1つがとて勉強になりました。次にジェネラルですが、そこではてんかんなどの全身性の疾患を扱い、とても診断が難しい症例も多くありとても興味深い症例を学習することができました。アメリカは様々な人種が一緒に暮らす国であるので疾患の多様性もあり、1つの国にいながらまるで何か

国も回ったような経験が出来ました。そして家庭医療科ですが、日本にはそのような診療科は稀でその概念に触れ、守備範囲の広さに驚愕しました。精神疾患を扱いました。帝王切開もするという日本では考えられないことが行われていました。私にとって、海外で1か月生活するというのは全く初めての経験であり非常に刺激的なものでし

た。食についてはアメリカ人のハンバーガー愛には感服いたしました。ハンバーガーはもはや主食のような存在で、確かに食材もフレッシュなのでとてもおいしかったので。最後に、日本もアメリカも人と人のつながりはハートであると感じました。一生懸命何かをやるうとすると周りの人は応援協力してくれるし、こちらが投げやりな態度をとると向こうもかかわっては来ません。国は違っても一番大事なのは熱意であることがわかりました。幸いわたしがアメリカで出会った人たちはとても親切にしてくれて、私を仲間だと認めてくれました。感謝してもしきれないくらいの海外実習でした。

この経験をもとに、グローバルな現場で活躍できるような医者になれるよう日々精進して行きたいと思えます。



ストロークチーム



サムとタク



お世話になったfamily medicineの先生方と。



診察室の様子。患者さんが待つ診察室に医師が訪れることが一般的のようです。

シカゴから、電車とバスを乗り継ぐこと4時間。アメリカ中西部に位置し、五大湖地域の一つであるミシガン州・ランシングに降り立ちました。壮大な大地に囲まれているアメリカでの生活に心を躍らせたことを昨日のこのように思い出します。ミシガン州立大学(以下MSU)の関連病院であるSparrow病院では、Family medicine(家庭医学)とNeurology(脳神経内科)で勉強をさせていただきました。ここでは日本人にとってもあまり親しみのないfamily medicineの実習について記したいと思えます。アメリカでは病気になるためプライマリケア医であるfamily doctorに診てもらうことが一般的です。Family doctorは新生児から高齢者まですべての患者を診察します。驚くことに、出産時に産科医ではなくfamily doctorが立ち会うことも珍しくないようです。今回の実習では、外来での診療を毎日違う医師について見学させていただきました。特によ

かったことは、患者さんのさまざまな背景を垣間見ることができたことです。プライマリケアではBiopsychosocial model(生物心理社会的モデル)に基づきアプローチが特に重要であり、患者さんが抱えている病気を治療する際には身体的な問題のみならず、ストレスなどによる心理的な問題がないか、また学校や職場での様子はどうかという社会的な背景にも視点を置いて診察します。腹痛で来た女性の患者さんが、実は夫からの暴力によりシエルターに滞在しているという悩みを打ち明けたことがありました。医師はじっくりと話を聞き、いつでもこのクリニックに戻ってきてねとハグをして帰しました。ADHDの子供に對しては、ソーシャルワーカーが学校や家庭での様子について親から情報収集を行っていました。またSparrow病院は低所得者向けの医療保険であるメディケイドの患者もたくさん受け入れており、このような患者は多くの社会的な問題を抱えています。このよう

に病気の背景にある問題点について考えることの重要性を実際のプライマリケアの現場で学ぶことができました。また、アメリカは人種のるつぼ、と言われているように、さまざまな人種の患者さんがクリニックに来ており、中には英語が流暢に話せない患者さんも多々いました。その際には電話による医療通訳を介した診察が行われていました。私が実際に立ち会ったのはアラビア語とロヒンギャ語の二例です。医療通訳を介しているとはいえ、100%の理解は難しいようで血液検査を受けずに帰ってしまったという問題も度々おこるようです。言語の壁は医療の現場においても大きなバリアになると痛感するとともに、最低限の診療を英語でできることは日本人の私たちにも求められていると感じました。また、MSUでの実習中にアメリカの保険制度について理解するよう心がけました。アメリカは日本とは違って国民皆保険制度ではない

め、オバマケアが実施される以前は現在と比べて医療保険に加入していない人がたくさんいたようです。保険に入っていないが適用するわけではないので、アメリカ人は自分の受ける治療や処方される薬が保険適応なのかどうかという点について非常に敏感でした。病院に行くとお金がかかる、という理由でなかなか受診しづらく、重症化してから来院するということも少なからずある一方で、低所得者向けの医療保険であるメディケイド

を持つている患者さんは医療費が低額であるため、頻りに病院を訪れるという問題があるようです。私たち日本人は国民皆保険制度に慣れているので、保険に入っていないが適用するわけではないので、アメリカ人は自分の受ける治療や処方される薬が保険適応なのかどうかという点について非常に敏感でした。病院に行くとお金がかかる、という理由でなかなか受診しづらく、重症化してから来院するということも少なからずある一方で、低所得者向けの医療保険であるメディケイド

を通じて地元の人と異文化交流ができたことが発端です。MSUの柔道部には学生のみならずMSUを卒業した社会人も多く参加しており、たくさんの人と知り合うことができました。アメリカンスタイルの柔道を、楽しめただけでなく、アメリカの政治や文化について生の声を聞くことができました。一か月という短い期間ではありましたが、アメリカの医療そしてアメリカの大学生ライフを体験することができ、多くの刺激を受けて帰国しました。今回、このような貴重な機会をいただきありがとうございます。この有意義だった実習を今後の学業に反映できるように努力していきたい所存です。また今後、より多くの後輩がこのプログラムを通してアメリカでの実習に参加することを切に願っております。Jin先生、学務係の皆さんをはじめ今回の留学に際してお世話になった方々に心より感謝申し上げます。



週末はナイアガラの滝へ。



MSU柔道部の仲間と。

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート
留学体験記 Universität Würzburg

6年 鈴木 文隆



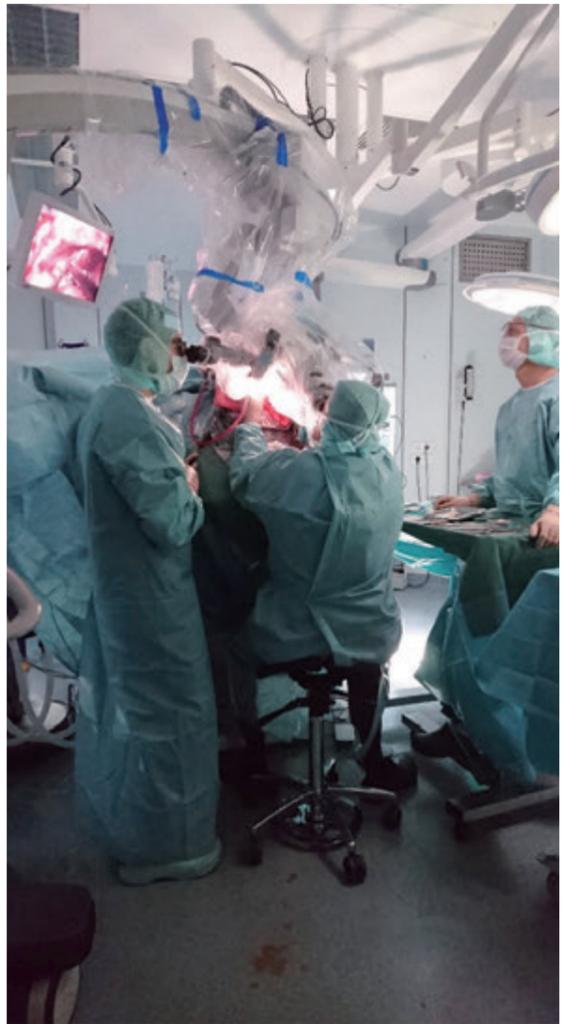
世界遺産レジデント@Würzburg



旧友と



脳外科プライベートクリニック@Hannover



頭蓋底手術の様子

高次臨床実習期間で1か月ドイツのビュルツブルグ大学に留学させて頂きました。ビュルツブルグはドイツの空の玄関口であるフランクフルトから一時間半程度の、人口15万人ほどの中規模の街です。ビュルツブルグ大はレントゲン、アルツハイマー等近代医学史に残る巨頭を数多く輩出してきた歴史ある大学で、長崎と関係の深いシーボルトも卒業生です。以前リサーチセミナー時にも留学させて頂いたためビュルツブルグには今回が2度目の滞在となりました。今回は大学病院の脳神経外科の脊椎班でお世話になりました。実習は7時半集合→班回診→医局全体カンファ→各自流動→17時帰宅といった流れで進みましたが、各自行動時間かなりの曲者でした。日本とドイツでは医師養成制度は当然異なり、学生の持つ役割も

かなりの差があります。ドイツの臨床実習生は無給労働者とも揶揄されるような権限があり、採血、抜糸などの基本的な患者さんの管理、外来での診察、他院への転院調整連絡、手術助手等々、日本の研修医レベルのことで自身の判断で予定を立ててこなしています。留学生である私も自由に行

動していいと言われるかもしれませんがシステムも何もかもが違う環境で半ば放置されることとなりかなり苦戦しましたし、同じ年次のドイツの学生に知識や手技でかなりの差をつけられていると感じとても刺激を受けました。大学院での実習以外にも個人的にアポイントを取ってプライベートクリニックを見学させて頂いたり、休日にはフランスまで小旅行をしたり高校時代にドイツに留学していた時の友人を訪ねたりと日々充実していました。1か月という短い期間でしたが、異国の地での実習、生活は日々刺激的で貴重な時間を過ごさせて

頂きました。何よりも今回の滞在でいかに自分が普段庇護された恵まれた環境にいるかを実感しました。今後はこの気づきを忘れずに積極的に学んでいければと思います。



Easter Day 食事会 Tan教授 (左)

2017年4月10日から5月5日までの4週間、シンガポール国立大学病院(NUH)にて高次臨床実習をさせて頂きました。1週目は循環器内科の集中治療部であるCCU、2週目は循環器内科の一般病棟で実習を行い、3、4週目はCCUでの実習を選択しました。本年度から始まったプログラムであり、右も左も分からない状態から準備を9ヶ月前から進めました。苦しいこともありましたが本当に良い経験となりました。

【実習について】
実習の基本スケジュールは、朝7時30分に病棟に集合しラウンドを約2時間かけて毎朝行います。日本では、カンファレンスを事前に行いその後にラウンドをすることが通常だと思いますが、NUHではベッドサイドでプレゼンテーションを行い、様々な検査データを参照しながら、患者さんの主訴に重きを置いて身体診察を行います。聴診や心エコーをはじめ、JVPなどの身体所見を一人ひとり丁寧にとっているのが印象的でした。時に一人の患者さんに30分以上時間を割く事も多くありました。

私を含め学生は特定の患者さんを受け持つのではなく、病棟全体から気になる患者さんを診察するように指示されました。急性期から慢性期、術後、時に心肺停止の患者さんなど日本での実習以上に多くの症例に暴露されたと思います。私は、研修医の先生方とラウンドの1時間前に病棟の元に足を運び診察をさせて頂き、その後研修医の先生方に診察所見を伝えるという練習を繰り返しました。年齢が近いこともあり、拙い英語にも耳を傾けて下さりまし

た。最終週には始めと比較的臨床力・英語共に力がついているのを実感できました。その後は、検査の見学や、急患がERに搬送された場合は初期対応に力がついているのを実感できました。その後、検査の見学や、急患がERに搬送された場合は初期対応に力がついているのを実感できました。

【日常生活について】
シンガポールでの生活はお金がかかったけれど、半正解、半不正解という感覚でした。シンガポールは狭い国のため、日本以上に住居費や車代が掛かるようでした。しかし、永住せず車を持たなければそれ程、お金ばかりかきません。食事に言えば、現地の人々が食べに行くホーカーセンターはとて安く、また、民族の多様性を反映するように、様々な国の料理を堪能できます。私は、マレー料理にはまり、よく、ジャババヤを食べていました。ホーカーセンターは、屋台村のような感覚であり、各居住区ごとにあります。屋台といつても国の衛生管理が行き届いており、清潔さがSランクからCランクまで表示されているため、SかAで食事すれば旅行者下痢症に罹患することはないでしょう。各ホーカーごとに有名な店があるので観光や実習で行った際には是非訪れてください。

休日、日本好きでCardiologyのTan Huiy Cheen教授が、様々なイベントに連れて行ってくださいました。イスターデイの日には、仏教徒である私を、5つ星ホテルでのイースターパーティーに招待して下さいました。総勢300人ほどのキリスト教徒の方が参加されており、10曲ほど賛美歌を歌った後、宴会場で食事を頂き、生ま



マレーシアでの食事

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート
シンガポール国立大学でのクリニックラウンジ

6年 永田 宗大

シンガポールは東京よりも満たない大きさで、MRTという地下鉄に乗り、様々なエンターテインメントを行うことができます。是非、シンガポールに行かれた際はMRTを利用して観光し尽くしてください。笑 上記の通り、様々な楽しいことがありましたが、衝撃的な経験を一つお話しします。その日、午前中で実習が終わり、Nicholasとその友人に遊びに行かない

て初めてのアーメンも経験できました。食事の際、長崎から来た方と知った方々に原爆や平和について多くの質問を受け、やはり、日本に生まれた以上、原爆についての知識と自分なりの意見を持つことが大切であると感じました。

NUSでの実習はともメリハリがついており、患者さんがいない時や、上級医の先生がいらっしゃらない時(笑)は、ランチョンセミナー後に若手の先生から帰宅の許可が下りることもありました。そのような時は、NUSから長崎大学に交換留学に来ることになっていたNicholas君や彼の友人と共に、シンガポールの街に繰り出し、食べ歩きや観光、マリナーベイでクルージングをしたり、シーカヤックを漕いでマングローブ林の探索など様々な遊びができました。シンガポールは東京都にも満たない大きさで、MRTという地下鉄に乗り、様々なエンターテインメントを行うことができます。是非、シンガポールに行かれた際はMRTを利用して観光し尽くしてください。笑 上記の通り、様々な楽しいことがありましたが、衝撃的な経験を一つお話しします。その日、午前中で実習が終わり、Nicholasとその友人に遊びに行かない



マリナーベイでのセーリング

かと連絡をとった所、ランチに行く、バスポートを持ってこいと伝えられました。とりあえず、指示通りバスポートを持って集合場所に向かい、彼から放たれた衝撃の一言。

「マレーシアに行くぞ。」

そこからバスで30分、入国審査を終え、気付けば、マレーシアでランチをしている自分がいました。国境を歩いて超えるのも勿論初めてでしたし、異国にご飯だけ食べに行くというのも初めての経験でした。彼らのバスポートは、マレーシアとシンガポールの出入国のスタンプでいっぱい、まさに、ランチバスポートでした。

マレーシアから毎日出稼ぎにシンガポールに来る人も多く、大陸の国ならではの感覚だと思えます。3時間ほど滞在して、帰国の途につきました。帰りは、帰宅ラッシュならぬ、帰国ラッシュに巻き込まれ1時間以上かかりました。本当に貴重な経験でした。

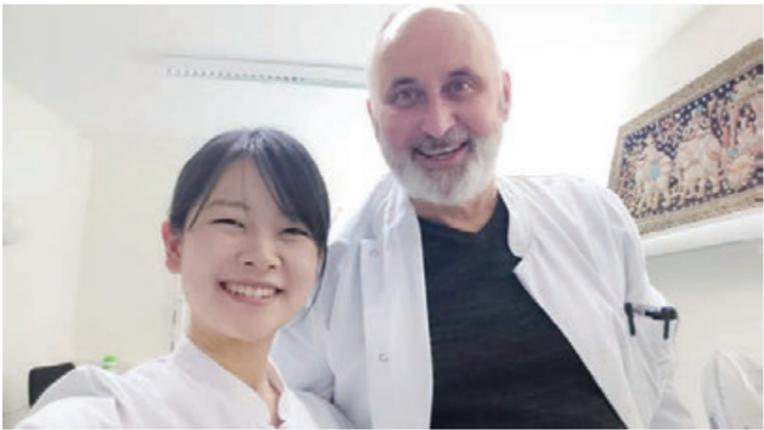
(実習を通して学んだこと) 今回の実習を通して様々な日本との違いを経験することができました。

整備の不十分さという問題も抱えており、今後日本人はこういった分野で協力できるのではないかと感じました。

前述した実習スタイルや個人情報への配慮もそうですが、予防医学や医療システムの不十分さを感ずることが多くあり、公衆衛生の重要性を確認しました。シンガポールの食文化は油や砂糖を多く使うため、多くの患者が糖尿病や脂質異常症を患っています。また、日本という開業医(Dr. Clinic)にかかると一般的でないため、三枝病変の状態でもERに搬送され、そのままCABGを行う患者さんや心臓手術も残念ながら助からなかったり、毎日のように見ました。先生方の会話でも日本の医療システムに関する話題が多く、救急や医療保険、地域包括ケア、健康診断など当たり前と思っていたことが世界では異なるという事に衝撃を受けました。シンガポールは医療技術や研究、施設のレベルはアジアトップであるとともに、医療システム

次に、シンガポールの学生が持つ世界に対する考え方の違いに驚きました。シンガポールは様々な人種から構成されており、医師や医学生は英語や中国語、マレー語やマダリンなど一人で複数の言語を話す事ができます。それ故に、学生は、シンガポール国立大学の医学部のみならず、免許互換が可能な英国や米国、オーストラリアの医学部に進学することも一般的で、長期休暇にNUHで実習を行う学生も多くいました。また、シンガポールでは英語で診療ができるため、展覧会や欧米諸国から多くの医師が集まっています。今後はさらに、アジアで、世界で、シンガポールが台頭してくる事は必至であると感じました。日本人が英語が話せないという点に對して議論するのは無駄であり、世界でも周知の事実となっています。とにかく下手でも自分の意見を述べようとする姿勢が大事なのではないかと感じました。現にインド人の先生の話す英語は本当に聞き取れませんが、堂々と話し高いポストについている先生方も多くいらつしやいました。

4週間と期間としては短いものですが、多くの衝撃と知識、経験を得られた実習となりました。最後になりましたが、今回の実習実現にあたりご尽力いただきました感染症免疫学講座の由井克之先生並びに臨床検査部の柳原克紀先生に感謝申し上げます。有難うございました。



放射線科 レオ教授と。日本大好きな素敵な先生でした。

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート 「ビュルツブルク大学での研修を終えて」

6年 石藏 友保子



学生チューター サブリナ直筆のプレートで迎えてくれました。1か月間親身になってお世話してくれてありがとう！

◎現地の実習について 2017年4月、クリニカルラックシップの1タームを利用してドイツ・ヴュルツブルク大学へ行っていただき、1か月で回りたい科を選択できるということ、今回は癌患者に対する治療のうち、いくつかの側面を学べるようにプログラムを組んでもらい1週目から順に婦人科(手術)、放射線治療、緩和ケアという流れで回りました。実際に手術に入りたり、現地の学生とともに検査や読影を行ったりと新鮮な経験ばかりでしたが、最も印象的だったのは最終週の緩和ケアユニットでの実習です。病棟には10人程度の末期がん患者を中心とした患者が入院しており、緩和ケア科の医師は、投薬や栄養などのマネジメントを行い看護師や心理

士、ソーシャルワーカーと連携しながら患者の要望に沿ったオーダーを他科に依頼します。「週末の予定に合わせて実家に帰りたい」という本人の希望から、ときに意識のない患者の治療決定権をもつ家族に重たい決断をしてもらおう、など一口には語りつくせないほど考えさせられる場面にも遭遇しました。緩和ケア医の仕事だけではなく、作業療法士による Physiotherapy や専門家による音楽療法(鈴や琴のような楽器を鳴らし、患者さんの体に触れさせ精神的な苦痛を和らげる)を見、一緒に参加する機会もいただきました。一方で日本との違いや共通点を知るために、日本での緩和ケアの実践についても深く学びたいという課題も見つかりました。1日に2人、3人と

◎最後に ヴュルツブルク大学では、交換留学の一環として次年度に長崎大学に来る予定の学生たちによるチューター制度というものがあります。右も左もわからない私たち日本人学生のために学生主体の病院ツアーやスキルラボ(心電図や血液検査などのシミュレーションセンター)への案内を行ったりと、毎週集まりを開いてくれたり非常に手厚い歓迎を受けました。また、私がする質問に対して1つ1つ親身に答えてくださったり、「○○の施設を見てみたい」「こんな治療はどんなものか」など私の興味や願いをどれほど気にかけて、叶えてくださったりするなど、どの科の先生、コメディカルの方々が優しく接してくださりました。彼らがいってくれたからこそヴュルツブルク大学での実習・生活がより良く、濃いものになったと確信すると同時に、彼らには心から感謝しています。

◎コミュニケーションについて 今回のドイツ留学は私にとつて初めての留学経験でした。患者・医師間の会話はドイツ語です。そのため外来診療や回診で内容を把握することはなかなか難しいことでしたが、症例ごとに先生方が英語で説明を入れてくださり、大きく苦労することはありませんでした。しかし英語が通じる国ではあるものの、言語の壁を感じる場面や慣れないこともやはり多々ありました。日本では「遠慮や配慮」といったところがドイツではそれがちがいで、ドイツではそれは通用しないことを学びました。小中学校といった初期の段階から挙げた回数や数を数えそれに応じた点数がつけられることから、ドイツでは意見の主張をすることがいかに重要視されているかがわかります。ドイツ人はみな自分の意見をはっきりと述べますし、非常にオープンです。医療の現場でもそれは同じで入室退室時の挨拶(ハグや握手を含む)から、外来診療、治療方針決定場面(疑問点はすべて明らかにする、嫌なもの・できないことは正当性を主張したうえでそう伝える)など多くの部分でドイツ人らしい会話やコミュニケーションを垣間見ました。それが彼らの関係をより深め、治療の可能性を広げていることは目に見えて明らかです。日本人らしい配慮や気配りを根底にした医療はもちろん日本ではなくてはならない素晴らしいものですが、ドイツ人らしいオープンな医療の在り方もあるのだと、文化の違いを感じました。

最後にりましたが、ビュルツブルク大学での実習を行うにあたり大変お世話になりました。精神科小澤教授、楠本様、その他多くの方々にご協力いただき感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



実習最終週、お世話になった学生の皆と



観光で訪れたドレスデンの風景。旧市街の街並みを楽しみました。



循環器での班員と



釜山大学で出会った友人たち



担当教授との食事会



次に人気だったのは松本城です。最近のお城は結構中にエレベーターがあったり、ピカピカの壁や床に作り替えられていることも多いですが松本城はその時代を感じてもらおうという趣旨のため、階を上がるのも雰囲気のある木の階段を使っています。※傾斜が急なので気をつけて。実は松本城は春のお花見スポットとして全国でもトップ5に入るくらい有名なんです！僕も何度か春に松本城に行きました。松本城は周りが堀で囲まれているため、桜の季節には水に桜が反射して見えるんです。今回は夏に行った人が多かったのですが、時間がある方はぜひお花見に足を運んでみてください！

いかがでしたか？これから長野県や近隣の県に旅行してみようという方はぜひ参考にしてみてください！



この時の駒をつなぎとめたといわれる枝垂桜が今も松本城に残っています。

こんにちは。白井です。皆さん夏休みはいかがでしたか？僕の友人が何人か僕の地元である長野県に旅行に行くと聞き、意外と九州から長野に行く人いるなと思ったので今回は勝手ですが長野県特集をさせていただきます！

長期休暇やシルバーウィークなどの参考にしたいだけならうれしいです。今回は長野県に旅行してきた友人数人に協力していただき、おススメスポットや旅行の感想を聞いてみました！「を」を使って引用させて頂きます。

一番九州の人が行くのは上高地の様です。「九州の阿蘇や屋久島を彷彿とさせる山と川、壮大な大自然」が特徴です。そのおかげで水がおいしい、長野県名物の蕎麦が「モチモチでおいしかった！」「冷凍じゃなく打って作ってる感じがよかったです」などの感想を頂きました。また、蕎麦に欠かせないワサビも有名です。中でもお勧めなのは安曇野のワサビ農園です。夏でも比較的涼しい気候の中、長野県安曇野で橋を渡りながら迎える一面ワサビを見渡せませす。涼しく、静かで、流れる水もきれいなのが爽快です。ワサビを渡ってからはワサビビールやワサビソフトクリームを楽しめます。この緑色のビールは僕は飲んでみたいですね。皆さんもぜひ試してみてください。もち



熊本城主加藤清正が江戸からの帰りに城の完成祝いに松本城に立ち寄った際、城主石川康長は、土産として駿馬二頭のうち一頭を差し上げる旨清正に申し出た。加藤清正は、志のほどを感謝して「貴殿の目利きで取り立てた駒を我らほどの目利きで選んでは誠に申し訳ない。二頭申し受けるのが礼儀と心得る。」と二頭を頂戴して帰った。これを伝えている人々は、さすが清正公と感じ入ったという。(加藤清正伝より)

平成28年度 高次臨床実習海外実習レポート

釜山大学での1カ月を振り返って

6年 木田 裕太郎

私はもとより留学に非常に興味を持っており、韓国での海外クリニックに応募した。6年時の4月に1カ月韓国の釜山大学で実習を行った。1カ月の実習期間中、救急科を2週間、循環器内科を1週間回った。救急科では心電図をとったり先生の指導のもと皮膚縫合、経鼻胃管、採血、直腸診など手技をたくさんやらせてもらった。英語での説明を受けながら手技を行うので、緊張と不安もあったがそのおかげで手技の内容が記憶に強く残り、良い実習になったと思う。循環器科ではPCIなどカテーテル治療の見学が中心だったが、英語が堪能な先生がいらっしやり心音の聴診や、心電図の読み方などを英語で教わる事ができた。

実習以外の生活についてだが、私は1ヶ月間釜山のヤンサンという少し外れの街に滞在した。韓国では学生や先生は英語を話せる人もかなりいたが、街中では日本と同じように英語を話せる人はほとんどいない。私は韓国語もほとんど話せないためとても苦労したが、実習で一緒になった学生が休みの日に買い物を手伝ってくれたり、様々な場所に案内してもらい、観光や韓国の食文化を味わったりすることができた。また、留学中は学生や街の店員などが非常に親切だったことがとても印象的だった。日本と韓国は近年政治的な問題もあり私自身少し警戒する気持ちは正直あったが、実際はそのような懸念は一切必要なく、むしろこちらが日本人とわかると店員が非常に親切してくれたり、サービスしてくれたりする人が多かった。今回の留学で隣国である韓国に対する親近感が増したことは、ある意味でも大きな勉強だったかもしれない。

今回韓国での友人たちからは良い刺激をたくさんもらった。私も今回の経験を生かしていつの日か彼らに再会する時に立派な医師になっていたいと思う。最後に今回の留学でお世話になった、下川先生、Yoon先生、学務の手さんにお礼申し上げます。

医師の道へ！

こんにちは！私たち医学部五年生は、現在、長崎大学病院でポリクリを行っています。今年、四年時の一月十三日に白衣授与式が行われ、一月十六日より、ポリクリが始まりました。



ポリクリって何？

ポリクリとは、医学部高学年が受ける「病院実習」のことで、実際に治療の現場でさまざまな知識・経験をj得るためのもです。長崎大学病院では、一つの科につき二週間、または一週間実習を行い、長崎市内の外病院や、杵岐・対馬、五島の離島に実習に行くこともあります。おおよその内容としては、外来見学、病棟実習、手術見学等を行っています。外来見学では、先生の後ろで外来患者さんの診察を見学し、病棟実習では実際に患者さんを受け持ち、診断、治療について学び、手術見学では、実際に「手洗い」を行い、ガウンを着て術野に入り、間近から見学することもあります。朝が早かったり、レポートやカンファでの発



はじめてのレシピシリーズ

一人暮らしのお料理♡

「秋の風が心地よい季節になりましたね♡」



みなさん、こんにちは！いかがお過ごしですか？一年生のみなさんにとっては、大学生になって初めての長期休暇♪楽しまれたことでしょうか。秋といえは、読書の秋、運動の秋とありますが、やっぱりこは食欲の秋☆(^^) 今回のお料理コーナーでは、秋にぴったりのおもてなし料理を紹介します。秋の夜長に、作ってみてはいかがですか？ さあ、たのしいお料理の時間です☆

～さくサクッ 鮭のごちそうパイ☆～



○手順

- ①パイ生地1枚は、1辺を1cm幅分切り取ります。(切り取ったものは、最後に飾り用に使います。)
- ②パイ生地2枚の表面全体にまんべんなくフォークで空気穴をあけます。
- ③鮭は軽く塩・こしょうし、耐熱皿に入れてラップをして電子レンジで加熱(500Wで2分)。加熱後軽くほぐします。
- ④Aを混ぜ合わせます。
- ⑤①のパイ生地の上に、縁から1cmあけて③を平らに置き、その上に④を伸ばしてもう1枚のパイ生地で覆い、縁をフォークで押さえます。
- ⑥表面に飾り用のパイ生地を飾り、全体に刷毛で卵液を塗ります。
- ⑦200度のオーブンで約15分、こんがり焼き上げます。
- ⑧切り分けてお皿に盛り、パセリを飾りましょう。
- ⑨できあがり♡

○材料 (2～3人分)

生鮭 お刺身用 (150g)、
塩・こしょう適量、
パイ生地 (冷凍市販品 9cm×18cmを2枚)、
溶き卵適量、パセリ適量
A=ゆで卵1個 (粗みじん)、
玉ねぎ (みじん切り、1/8玉)、
マヨネーズ (大さじ1と1/2)、
塩・こしょう適量、パセリ適量



どうでしたか？ 特別なお料理って、なんだかワクワクしちゃいますよね(^^*)

戦国武将も虜になった鮭。秋の夜長にご賞味くださいませ♪

今回はバレンタイン特集！お楽しみに☆

～豊臣秀吉のおもてなし～

鮭について何か面白いお話はないかしらと調べてみました。すると出てくる出てくる…！戦国時代において鮭は超高級品だったようで、かの豊臣秀吉も毛利輝元が訪ねて来た時のおもてなしには鮭のフルコースを出したそうです。ほかに、前田利家は相模の鮭の皮好きで、「豊一畳の鮭の皮なら、この城と交換してやる」、「鮭の皮なら一里でも食べられる」という事を言っていたようです。本当によほど好きだったのだなあと思えますね。

＋α 鮭の豆知識

みなさん、11月11日って何の日か知っていますか？ポッキーの日？
実は「鮭の日」でもあるんです。さけ(鮭)という漢字は、魚偏に十(十)と書くからなんですか？
では鮭は赤身魚か白身魚どちらでしょうか？大抵の人は「えっ？赤身じゃないの？」と思われると思います。しかし魚の赤身・白身は、その魚の習性による筋肉の違いによるもの。鮭は産卵の際に瞬発力を活かして川を駆け上がる為の速筋が発達しており、白身魚になるのです。ではなぜ赤っぽいのかというと、それは鮭が食べるエビなどの甲殻類の殻に含まれるアスタキサンチンが赤いからなんです。

編集後記

秋の風が心地よい季節になりましたね。秋の夜長、みなさんほどなことをして楽しみますか？勉強の秋、読書の秋、好きなことができる夜ってなんだかワクワクしますよね♪さて、今回のお料理はおもてなし料理です♡お家でわいわいホームパーティーなど、いかがですか？ (和田)

こんにちは、白井です。今年の夏は岡山↓長野↓東京↓長崎と帰省に絡めて遊び尽くしてしまいました。友達か海に誘ってくれたり外国人パーティーに行ってみたり、行動範囲が広がってきて嬉しい限りです。後期も充実させていきます！皆さん暑さに負けず元気に頑張りましょう！！ (白井)

こんにちは、大熊です！今年の夏は、四国、佐賀、ハウステンボス、バイオパークに行ってきました。特にバイオパークは初めて行ったのですが、予想以上に動物と触れ合えたため、アニマルセラピーを十分に浴びることができました！三年生の後期は忙しいと聞きますが、勉強も部活も遊びも両立(三立?)して頑張っていきたいと思えます (大熊)

美味しいものに目がない、松島です。束の間の夏休みにあつちこつちで食い意地を発揮しております！テスト後半戦に向けて、腹こしらえだけは万端です!!頑張ります笑笑 (松島)

日に日に色黒度が増しております、熊谷です。あだ名に「こげパン」を授かりました。

今年の夏は部活あり、遊びありの慌ただしい日が続いておりますが、試験前半戦も落とすことなく順調です！夏後半も充実させるぞ！ (熊谷)

お久しぶりです！荻野です！今年の夏は、病院見学をしたり、地元の方に沢山会ったりと、充実した夏休みを過ごせた気がします。病院見学は、将来の働き方を考える良い機会になりました。夏休みももうすぐ終わりますが、最後までしっかりと満喫しようと思えます!! (荻野)

今年は、一番下の妹の受験が終わったので久しぶりに家族旅行に行ってきました。いつまでたっても家族は変わらぬのだと再確認しました。今回は、海外ポリクリの記事を担当しています。マッチングや卒業試験で忙しい中みなさん書いてくださいました。是非読んでみてくださいね！ (山本)

実習、卒試も終わり、残すはあと国家試験のみになりました。最後の夏休みは富士山に登山したりベトナムに行ったりと短いながらも充実していたと思います。

残りの学生生活は勉強しつつも楽しみたいです (野本)